

2026年度(令和8年度)学校評価自己評価表

精華 中学校区	校番 35	福山市立藤江小学校
最終更新日	2026年(令和8年)4月1日	

I 福山市

めざす姿	すべての子どもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

<p>前年度学校運営協議会(学校関係者評価)の主な内容</p> <p>熟議のテーマ</p> <p>第1回「学校の経営方針」等</p> <p>第2回「地域が育むこれからの時代を生き抜く子どもとは」「地域でこそできる学びは」</p> <p>第3回「地域理解を深める学校教育の推進～地域で何ができるだろうか」</p> <p>第4回「次年度に向けて地域とともにつくる学びを」</p>	<p>児童生徒の現状</p> <p>○自己肯定感が高く、素直に真面目に取り組む姿がみられる。</p> <p>○自分の考えをもち、分かりやすく他者に伝えようとする意欲をもち自己表現している。</p> <p>○地域の方とかかわりたいという気持ちが育ちつつある。</p> <p>▽自己理解に乏しい面がみられ、主体的な活動につながっていない。</p> <p>▽学ぶことに対して、自ら向上心を持って何かに取り組もうとするまでには至っていない。</p>	<p>育成する資質・能力</p> <p>めざす子ども像(義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>【主体的に学ぶ力】【思考力・判断力・表現力】【自己形成力】</p> <p>・確かな学力を身につけ、自ら進路を切り拓く子ども</p> <p>・自己肯定感が高く、地域に愛着と誇りをもち、社会に貢献できる子ども</p> <p>・学力分析と授業研究を通した「主体的な学び」の授業づくりに取組み、学力の向上を図る。(授業づくり部会)</p> <p>・「自分で選び・決める」活動に取組み、思考力・判断力・表現力を育成する。(プロジェクト部会)</p> <p>・児童生徒の自己肯定感と自己有用感を向上させ、自己形成力を育成する。(生活習慣向上部会)</p>
---	--	--	--

育成する資質・能力	主体的に学ぶ力	思考力・判断力・表現力	自己形成力	
めざす子ども像	小1～小4	日常生活をよくするために、生活体験などの情報を生かし、様々な課題に意欲的に取り組むことができる。	自分の考えを持ち、相手意識を持って、話したり書いたりして表現している。	思いやりの心を持ち、目標を達成するために、協力し合い、粘り強く努力している。
	小5～中1	日常生活や地域社会をよりよくするために、学ぶことに対し自分で価値を見出し、様々な課題に意欲的に取り組むことができる。	日常生活や地域社会をよりよくするために、既習事項を活用して、自分の考えや意見を話す・書く等で表現している。	日常生活や地域社会をよりよくするため、相手のことを思いやりながら目標を決めて、最後までやり遂げようとする。
	中2～中3	社会をよりよくするために、学ぶことに対し自分で価値を見出し、様々な課題に自発的・能動的に取り組むことができる。	社会をよりよくするための課題を見つけ、既習事項を活用して、自分の考えや意見を工夫しながら表現している。	誰に対しても思いやりの心を持ち、より高い目標を達成するために、相手の立場や考えを尊重しながら、粘り強く取り組み、やり抜いている。

III 自校

<p>学校教育目標</p> <p>自分を大切に 人を大切に ふるさとを大切に しなやかに、たくましく生きる子どもの育成</p> <p>「チャレンジ！藤江っ子」～未来へ向かってアップデート～</p>
--

<p>現状</p> <p><学習></p> <p>○児童自らが学びに向かう姿が見られる。</p> <p>○基本的な知識・技能の習得は概ね身につけてきている。</p> <p>○自ら地域と関わろうとする姿が見られる。(総合的な学習の時間、生活科、社会科)</p> <p>▽家庭学習が、自らの学びを伸ばすものにまでは至っていない。</p> <p>▽情報をつながたり、整理したりして解決することに課題が見られる。</p> <p><生活></p> <p>○主体的な児童会・委員会活動を通して、児童に自分たちで学校をよりよくしようとする姿勢が身につけてきた。</p> <p>○新たなものを生み出したい意欲が見られる。</p> <p>▽物事を部分的にしか見ることができず、全体をイメージすることが難しい。</p> <p>▽インターネット・ゲームの使用時間が長く、生活習慣への影響が見られる。</p>
--

研究	<p>テーマ</p> <p>主体的に学び続ける子どもの育成～自己の学びを自覚し力をつける授業づくり～</p> <p>内容等</p> <p>○児童一人一人の学びの見取りによる授業・単元づくり</p> <p>○学校と家庭を学びで繋ぐ振り返りの活用</p> <p>○家庭学習を活用した学びの定着</p>
めざす授業の姿	<p>・単元、本時のゴールを児童と教師が共有し、見通しをもって学びを進めている。</p> <p>・個々のつまづきに応じた手がかりをもとに、自ら学びを進めている。</p> <p>・児童が自ら課題を見つけ、見方・考え方を働かせ自らの思考を表現している。</p> <p>・振り返りを通して、児童自らが学びの変容を自覚し、次の学びにつなげている。</p>

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価
5	主体的な学び の授業づくり を進め、学ぶ 意欲と学力の 向上を図る。	★	見 直 し	個々のつまずきを 把握し改善を図る とともに、主体的 ・協働的な学びを 大切にした授業づ くりで、学力の向 上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 単元のゴールを 児童と教師が共 有し、学力向上に つながる授業を 行う。 児童のつまずき を解消するため 「授業づくりポ ートフォリオ」を 作成し、学力分析 ・課題改善を行 う。 宿題の出し方を 工夫し、学校の 授業での学びと 家庭の授業外 での学びを繋 げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数科の単元 末テストにおい て、70点未満 の児童を20% 以下。 標準学力テ ストの算数科 において、全国 平均を下回る 児童を前回以 下。 								
			継 続	読書活動に積極 的に取り組む児童 を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 読書活動に積極 的に取り組むよ う、年間目標読 書数を設定する とともに、読ん だ内容について 紹介する場を 設ける。 国語教科書で 紹介されている 本を学期ごと に設定し関連 して読めるよ うにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標読書数を 超える児童85% 以上。 当該学年の 国語の教科書 に紹介されて いる本を全て 読んだ児童 80%以上。 								
5	児童の自己肯 定感と自己有 用感を向上さ せ、自己形成 力を育成する。		継 続	よりよい学校生 活を送るため に、自ら進ん で行動する 児童を育成す る。	<ul style="list-style-type: none"> 学級、全校で の活動を学級 や児童会・委 員会の児童が 主体となって 企画運営す る。 活動後の振り 返りを行い、 次の活動に 生かせるよ うにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 見通しをもち 、お互いに協 力しながら 課題の解決 に取り組んで いる児童80% 以上。 企画運営年 2回以上。 								
2	地域とともに ある学校づく り	★	継 続	地域に愛着をも ち、自ら関わ ろうとする 児童を育成す る	<ul style="list-style-type: none"> CSで話し合 われた内容を もとに、ふる さとをテーマ にした学習を カリ 	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラム マップへの ふるさとを テーマにした 学習の位置 づけを 								

	を推進する。		る。	<p>キュラムマップに位置付ける。そして、内容の具体を定期的に交流して共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が地域の人とかかわる場づくりを行い、地域と学校のつながりを深める。 	<p>昨年度以上。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさとが大好き」な児童90%以上。 									
1	教職員の資質・能力の向上を図る。	新規	<p>児童一人一人の学びを促すための自己研鑽に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他の教師の授業を参観し対話することで互いに学び合う。 ・情報交換会で、互いの取組を交流する。 ・他校の研修等に積極的に参加し、学んだことを校内に発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内でとても学びがあったとする教職員、肯定的評価75%以上。 ・情報交換会を月1回、研修報告会を学期ごとに1回行う。 									
			<p>教員が生き生きと働ける環境を整備する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会議や研修等の時間設定や内容を各分掌の担当者と主任主事が連携し計画的に行う。 ・職場の仲間と相談・協力しながら業務を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「仕事へのやりがいを感じている」教職員100%。 									

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。